

カテゴリ	項番	意見・質問まとめ
財政	1	<p>水道の使命は持続して安全・安心な水を供給することだと思うが、そのためには経営基盤がしっかりしていなければならない。今後、水の需要は減少するが耐震化や老朽管の更新が必要とされることに対して事務局の意見を聞きたい。</p> <p>→経営改善を進めていく。また、近隣の事業体や阪神水道企業団との連携、民間活力の導入等複合的に考えていきたい。</p>
	2	<p>第1回目の審議会で、現状のままでいくと平成38年度に赤字になるという説明であったが、施策を実施するとなぜ黒字になるのか。</p> <p>→投資額を抑えることとあわせて、民間委託の推進等で人員の欠員を補うことを考えている。</p>
	3	<p>コストダウンの一環として職員数の見直しをされるのもいいと思うが、10年後は職員数が約半数になることは市民サービスレベルの低下につながるのか。水道料金を維持することが前提となっているが、市民サービスを維持するためには、水道料金の改定について議論する必要があると思う。</p> <p>→市民サービスの低下をきたさないよう民間活力の導入等、運営していきたいと考えている。芦屋市と同等の事業規模である類似団体の平均職員数は20名である。他の団体ができている以上、我々も負けないように業務を行っていききたいと考えている。</p>
	4	<p>過去10年程料金の値上げをされていない中、料金値上げをしない前提でビジョンや経営戦略を策定されているが、仮にその料金を多少上げたら、もっと改善されるということは考えなくてよいのか。</p> <p>→料金値上げの前に内部努力が必要であるという視点でいる。まったく値上げを視野に入れなかったわけではなく、内部努力できるところを取り組み、今回は値上げをする必要はないと考えている。</p>
	5	<p>これまでも事業委託や工事の抑制等で資金がなくなると予測される時期を先に延ばしているのか。</p> <p>→ご指摘のとおり。あわせて様々な改善を積み重ねてきている。</p>
	6	<p>水道料金は据え置くことが大前提でビジョンも経営戦略も策定しているが、水の需要が減っていく中、このままでいくと給水収益は必ず減るが、一方で設備更新や耐震化で一定の支出は必要である。簡単に言うと、借金をして運営しているだけではないのか。</p> <p>→人口減少に伴い、収益減少も避けられないので、しかるべき段階で値上げも含めた考えが必要であると考えている。また、施設を減らすことで施設の維持管理費や改修費、人件費等を減らせると考えている。</p>
	7	<p>経営戦略を策定しても料金回収率が100を割り続けるが、何か講ずる必要があるのではないかと。水道料金を上げないのであればコストを下げるのが考えられるが、人件費以外で維持費を削減するとか、あるいは未利用地の利用等で収入を確保するとか考えをお聞かせいただきたい。</p> <p>→具体の施策については第3回審議会【事前資料2】別紙4</p>

カテゴリ	項番	意見・質問まとめ
財政	8	<p>人件費について，平成35年から大幅に減少するが，どのように実現していくのか。 →原則，欠員不補充とし，事業を民間委託することを考えている。</p>
		<p>人件費を減らして民間委託されるということだが，民間委託の費用はどれくらい増えるのか。 →人件費減少分の委託料の増加分は明確なのはないが，人件費の8割を委託料として見込んでいる。</p>
		<p>人件費が減少すれば民間委託料も減るということか。 →現時点を出発点として，民間委託することで人件費の2割分が削減できると考えている。</p>
		<p>人件費も民間委託費も減れば，その仕事はどうなるのか。 →仕事量は恐らく変わらない。担い方が公務員なのか民間事業者なのかの違いである。</p>
		<p>民間への委託料はどの項目に入っているか。職員減少分に対する委託料の増加が表からは見えないように思われる。人件費以外のところでも，費用の抑制をしているところは明確にされる方がいいのではないかとと思う。 →第3回経営審議会の事前資料2「芦屋市水道事業経営戦略【原案】」の「【別紙5】」における平成29年度の「収益的支出」の「(2)経費」の「その他」約6億8000万円に含まれている。</p>
		<p>効率化をしていく中では初期投資もかかるため，人件費もその他費用も減るということが本当に実現するのかと感じる。</p>
企業債	10	<p>給水原価を下回った値段で水道水売っていることについてはどうお考えか。 →少なくとも収支が均衡し，供給単価でお売りできるように我々が努力しなければならないと考えている。</p>
		<p>どのような施策で原価を減らすのか。 →人件費が占める割合が高いので，順次退職後は，その業務を民間委託するということを含めて，工夫しながら行っていきたい。</p>
企業債	10	<p>過去に5%や6.2%で借りた企業債を現在の低い利率で借り替えることはできないのか。 →容易に償還期間を変更することができない。また，変更した場合は，手数料が発生し，その手数料が利息分ほどになる。</p>
		<p>低い利率で借りて，過去の高い利率の企業債を繰り上げ返済することはできないのか。 →できない制度である。</p>

カテゴリ	項番	意見・質問まとめ
施設の更新・耐震化	11	減価償却の説明の中で、投資額を減少させるということであったが、問題ないのか。 →管の耐用年数が技術革新によって伸びており、今後は耐用年数が伸びた管に更新していくため、更新時期が伸びることで投資額を減少しても問題ないと考えている。
	12	技術革新による優れた材質の管に置き換える計画を示した方が分かりやすくなるのではないか。 →平成25年度以降、GX管というダクタイル鋳鉄管の非常に被膜が強い管でメーカーが耐用年数100年とうたっている管を使用して施工することで、更新時期が長くなっている。
組織	13	平成39年度に24人になったときの組織図を掲載したらわかりやすいのではないか。 →13人減員しその業務は民間に委託すること、また下水道事業が公営企業化することで水道事業の組織との編成の兼ね合いもあり、現時点で平成39年度の組織図を作成することは難しい。
	14	類似団体が効率的に事業をやっているとのことだが、研究はされているのか。 →類似団体の職員内訳は事務・技術職が20名で技能職が1名である。本市においては他の自治体でいう技能職に近い職種が約10名いる。浄水場を所有している他の自治体は民間による運営が多いということもあるので、参考にしながら適正な配置に努めていきたいと考えている。 そのため、自己水を残しながらも退職者に応じて部分的に民間委託を入れながら、最終的には委託でいきたいと考えている。
	15	第4回【当日資料3】の項番8と項番16で類似団体の職員数が20名と24名と書かれているが、目標をどうするかはある程度定めたほうが良いと思う。仕事量が変わらなければあとのやり方は効率を上げることであると思う。外部委託をしてもそんなに簡単に職員は減らないと思うので、次の明確な手を打ち、具体的に描いたほうが良いと思う。
	16	事業を大幅に委託しても、水の安心・安全に問題はないのか。 →委託に出すとはいえ、芦屋市の責任の範疇で実施していく。また、今後も継続して安心・安全な水を提供していくことは芦屋市の使命と考えている。
	17	どの部門を外部委託するのか分かりにくい。また、外部委託することによって1人あたりについて今とどう変わるのかが分かりにくいと思った。

カテゴリ	項番	意見・質問まとめ
阪神水道企業団	18	平成25年度の審議会において、阪神水道企業団へ変動費込みで受水費を支払うのは不公平であると意見した。その後の阪神水道企業団との交渉はどうなっているか。また、過去に変動比率をもとに議論したが、もう一度変動比率の妥当性を説明してほしい。 →第3回審議会【当日資料4】4頁
	19	受水費の過払いの件については、阪神水道企業団とぜひ交渉を続けていただきたい。 →引き続き、構成市とともに協議していく。
		阪神水道企業団の過払いがゼロになった場合、現在の給水原価171円はいくらになるか。 →阪神水道企業団の過払いは受水量の約14%を占めており、それがないと仮定したら単価として9円下がり、162円になる。 阪神水道企業団の過払いを限りなくゼロにするという目標をぜひ掲げておいてほしい。
パブリックコメント	20	関心のある施策を踏まえ、建設的な意見が出てくるような仕掛けというのをビジョンの中に含めていくのを今後考えていくことが大事である。
		市民の方が身近に感じることを踏まえた施策がビジョンに含まれていれば、パブリックコメントでご意見がいただけたのではないか。
		料金についての意見を値上げの局面で聞くと、極論が出てくるので、平時に意見を聞いた方がよいと思う。
		ビジョンに自己水を守ること、安心・安全のためにかかるコストを示してこれからの経営を書いたら、皆さんが理解をして意見を寄せてくるのではないかと思う。
その他	21	これまでのビジョンでどれだけ経費削減できたかという比較が書いていないので、今回のビジョン策定での変化が見えにくいのではないか。 →ビジョンを見直すのであれば、これまでの評価をすべきではないかというのはご指摘のとおり。 比較については、第4回審議会【当日資料4】のとおり